

令和5年度 全国学力・学習状況調査結果の概要について

可児市教育委員会

1 調査の概要

(1) 調査の目的

- ・全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上のため、児童生徒の学力・学習状況を把握・分析することにより、教育の結果を検証し、その改善を図る。
- ・可児市教育委員会、学校等が全国的な状況との関係において、自らの教育の結果を把握し、その改善を図る。
- ＊本調査の結果は児童生徒の学力の特定の一部を示すものであり、この結果のみで児童生徒の学力の全体を判断できるものではありません。

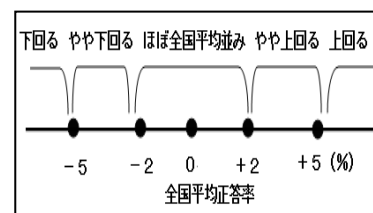
(2) 対象学校・児童生徒

- ① 可児市内全公立学校 【11小学校（6年生） 5中学校（3年生）】

(3) 調査内容

- ① 教科に関する調査（国語、算数/数学、英語（中のみ）、生活習慣や学習環境に関する質問紙調査）

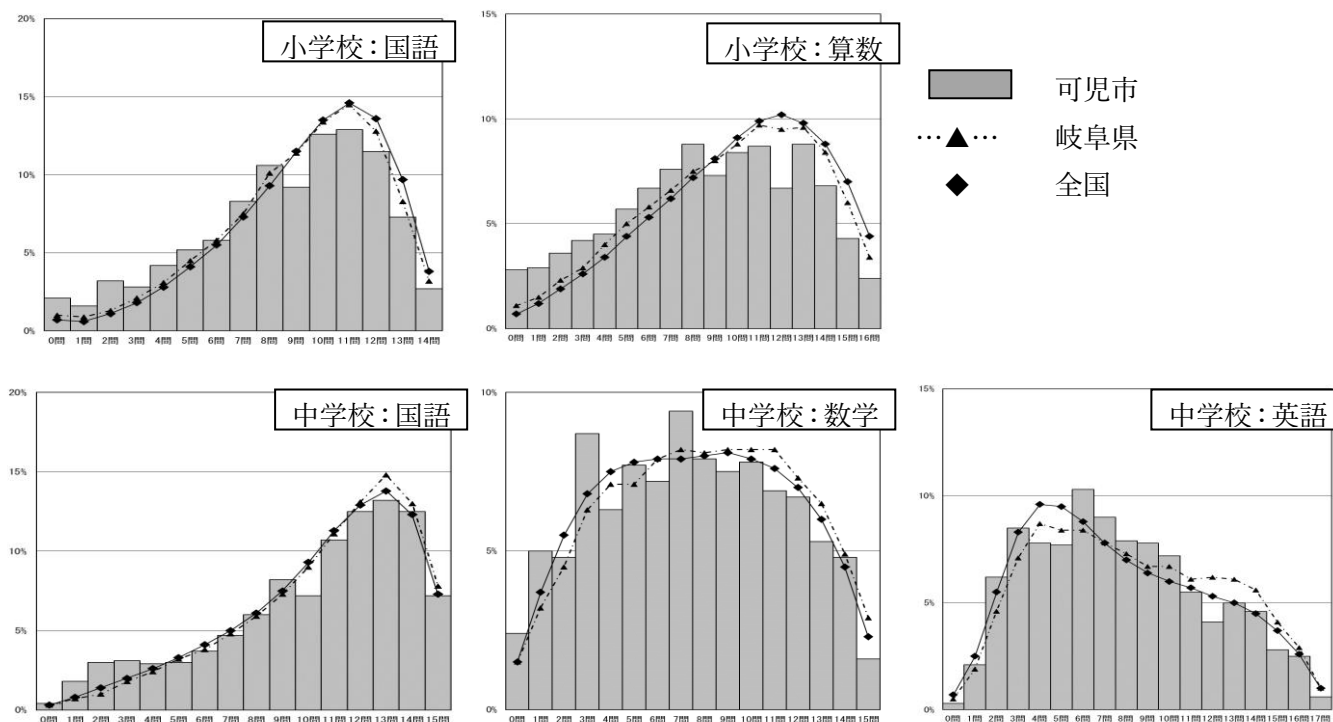
(4) 調査日 令和5年4月18日（火）



2 可児市における調査結果の概要

(1) 教科に関する調査結果

- 小学校は、国語・算数とも全国平均を下回った。
- 中学校は、国語・数学・英語ともほぼ全国平均並だった。
- 正答数分布グラフ（横軸：正答数 縦軸：割合）



- ・小学校はどの教科も正答数が少ない児童の割合が高く、正答数の多い児童の割合が低い。
- ・中学校はどの教科も全体的に正答数の割合は、全国・岐阜県とほぼ同じである。

○各教科の結果概要からみた課題

- [小国] 「情報の扱い方に関する事項」に関わる設問に対する正答率の全国比が低い。
- [小算] 「数と計算」に関わる設問に対する正答率の全国比が低く、昨年よりも下がっている。
- [中国] 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」に関わる設問の正答率の全国比は昨年より上がっている。
- [中算] 「数と式」に関わる設問に対する正答率の全国比が低い。
- [中英] 正答率は全国比とほぼ同じ。「話すこと」に関わる設問については、全国平均を上回った。

○課題となる特徴的な設問

- [小国] 「情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる」（情報の扱い方に関する事項：知識・技能）
- [小算] 「加法と乗法の混合した整数の計算をしたり分配法則を用いたりすることができるかどうかをみる」（数と計算：知識・技能）
- [中数] 「自然数の意味を理解しているかどうかをみる」（数と式：知識・技能）

<課題解決への手立て>

□基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得

算数・数学では小中ともに、「数と計算」「数と式」に関する知識・技能の習得に弱さがみられました。小学校ではかけ算の計算の正答率が昨年度より下がり、弱さがみられました。中学校でも自然数をとらえたり文字を用いた式の計算をしたりする知識・技能の習得に弱さがみられました。知識・技能の学習後も問題解決するための計算や処理が的確にできているかを確認する機会を多くし、基礎的・基本的な知識及び技能の定着をさらに図ります。

□主体的・対話的で深い学びのある授業の充実

記述式の問題は、特に小学校において、全国平均と比較し、無回答率が高い傾向にあります。計算に関して成り立つ性質を活用し、場面を新たに捉えたり、事象を計算の過程や結果と関連付けて表現したりする力に課題がみられます。仲間と関わりながら考察し、いくつかの情報を関連付け、根拠を明確にして記述したり、説明したりする活動を行うことで、問題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力をさらに伸ばすような授業改善を図ります。

(2) 児童生徒質問紙に関する調査の分析の概要

各質問項目に対する回答の割合は、ほとんど全国平均並みでした。その中で、全国平均と比べて、「回答 1」「当てはまる」回答 2「どちらかといえば当てはまる」が、全国平均より特に高かった(低かった)項目及び全国比が昨年よりも特に上がった(下がった)項目について、以下に示します。

数値：回答 1 + 回答 2 の割合(全国比)【R4 比】

質問内容	小学校	中学校
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。	76.1 (+5.4) 【+8.1】	51.8 (-3.2) 【-7.1】
読書は好きですか。	78.5 (+6.7) 【+3.2】	71.1 (+5.1) 【+0.3】
住んでいる地域の行事に参加していますか。	69.2 (+11.4) 【+1.7】	50.6 (+12.6) 【-2.3】
5年生(中学1、2年生)のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えをうまく伝えるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表しましたか。	58.3 (-5.4) 【+1.6】	68.7 (+6.6) 【+3.3】
あなたの学級では学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか。	81.4 (+4.2) 【-0.3】	83.6 (+5.7) 【-3.5】
学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか。	77.9 (+2.2) 【+0.3】	79.2 (+7.6) 【-1.8】
5年生(中学1、2年生)に受けた授業で、PC、タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使用しましたか。	52.7 (-9.7) 【-7.7】	38.3 (-22.8) 【-13.7】
国語の勉強は好きですか。	54.7 (-6.8) 【+3.8】	57.3 (-4.1) 【-5.0】
算数(数学)の勉強は好きですか。	54.3 (-7.1) 【-5.7】	60.7 (+4.0) 【-1.4】
英語の勉強は好きですか。	64.1 (-5.2)	47.5 (-4.4)

「毎日、朝食を食べている」「同じくらいの時刻に寝る・起きる」と回答している児童生徒は、小中学校とも全国比を若干上回っており、規則正しい生活習慣を身に付けている児童生徒が多いことがわかります。

また、小中学校の児童生徒とも「人が困っているときは、進んで助けている」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」「友達関係に満足している」と90%以上の児童生徒が回答しており、周りの人との関わり方を大切にして生活している姿がみられます。

「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」と肯定的に回答した児童生徒が小中学校ともに、全国比と昨年比を上回りました。各学校でより教育相談体制が整ったことや昨年度からスクールカウンセラー等による SOS の出し方に関する教育を実施したことから児童生徒にとって相談しやすい体制となったことが、子どもたちの意識が高まった要因と考えられます。

昨年度同様、多くの児童生徒が地域の行事に進んで参加しています。子どもたちに地域で活躍する場があり、家庭・地域が一体となって子どもたちに寄り添う環境となっています。

タブレット利用の頻度については、全国比で低く、昨年度からも下がっています。タブレット活用のスキルは定着したので、協働的な学びの場面での利用を進め、可能性を引き出す新たな学びの実現につながるように、より効果的な活用を推進します。

3 全国学力・学習状況調査の活用について

- 本調査において、正答率が低い問題については、市全体で課題を共有し、全職員の共通理解をもとにして、日々の授業改善に取り組みます。
- 各小中学校においては、これまでの全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させるとともに、主体的・対話的で深い学びが授業の中で行われる協働的な学習をさらに充実させます。また、わかる喜びや学ぶ楽しさを実感できるよう評価を工夫し、個々の学習状況や定着状況を見届けるなど、きめ細やかな指導の充実に取り組んでいきます。